

発熱疼痛時フォーミュラリ

2025.12 作成

クリニカルパス委員会 薬剤部

【監修】 外科 秋山 紀雄

内科 横山雄一郎

内服可能時

① カロナール錠 200 2錠 内服

→ 1回量は10～15mg/体重まで増量可能 (MAX: 1000mg・5錠)

② ロキソプロフェン錠 60mg 1錠を追加内服する

→ 定期内服へ移行する場合は胃潰瘍予防薬 (レバミピド等) を併用すること

疼痛状況が続く場合は最低6時間間隔を空けて再投与

上記3剤 (NSAIDs) について

※15歳未満の小児、妊婦への使用は注意すること

※重篤な肝障害、腎障害者は禁忌のため注意すること

※アスピリン喘息の既往歴がある方は禁忌

内服不能時

→ アセリオ静注液 500mg (50ml) を15分かけて投与。

疼痛症状が続く場合は50mlを追加投与、以降6時間毎に定期投与。

術後疼痛高度の場合

→ アセリオ静注液 1000mg (100ml) を15分かけて投与。

疼痛症状が続く場合は6時間毎に定期投与。

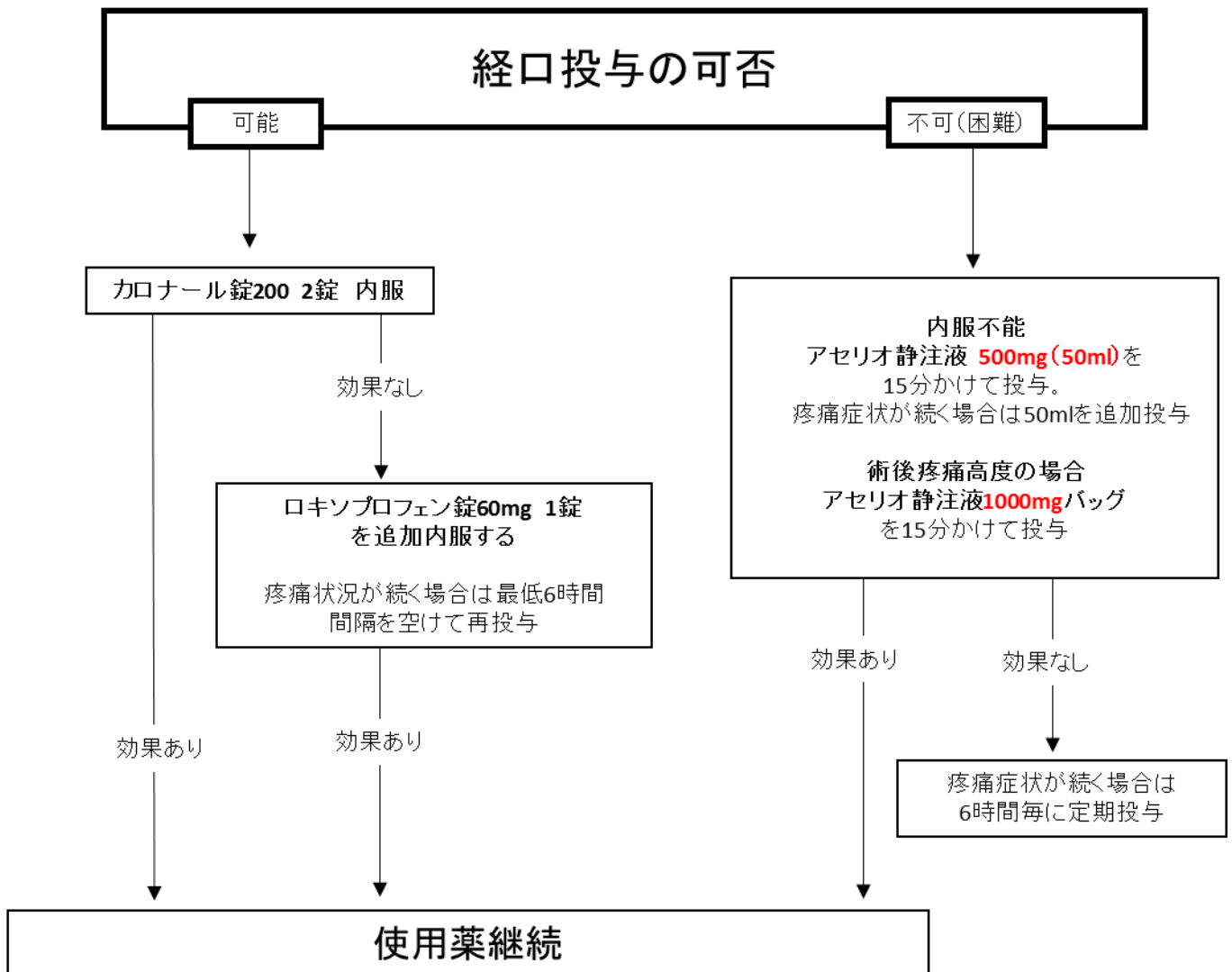
体重50kg未満の成人には体重1kgあたり1回15mg (1.5ml) を上限として静脈内投与

※肝機能障害がある患者には注意

上記対応で疼痛症状が改善しない場合は主治医へ指示を仰ぐこと

院内フォーミュラを活用した【発熱疼痛時】フローチャート

2025.12作成
臨床パス委員会 薬剤部
【監修】外科 秋山 紀雄
内科 横山雄一郎



※上記対応で疼痛症状が改善しない場合は
主治医へ指示を仰ぐこと
常備薬の設置は病棟担当薬剤師と協議すること